

おわりに

令和2年度は新型コロナウイルス感染症に翻弄された1年であった。

令和元年の12月に日本で最初のコロナ感染症が発症後、日本中に蔓延し、今年度の4月、5月には緊急事態宣言が発出された。感染症蔓延予防の為、国民は自宅待機を要請された。それと共に、デパートを含む商業施設の休業、クラスターを起こすとされたジムやカラオケ店の営業自粛などが行なわれた。

当事業団でも、人間ドック学会や、日本総合健診学会の推奨により、4月と5月の健診を中止とした。また、診療所の外来も診療時間を1時間短縮とした。それと並行して、マスクを外す検査の消化器内視鏡や呼吸器検査を中止とした。

緊急事態発出中に、職員一同が感染予防策を試行錯誤し講じた。健診センターや診療所で感染予防のため、受診者が密にならないように受診者の制限や、椅子の配置を行うとともに、アルコール消毒の徹底し、受付にはビニールカーテンを取り付けた。また、放射線、生理機能、消化器内視鏡などの検査時にも、万全の予防措置を図った。初期には感染予防対策のマスク、アルコールやガウンの不足があったが、事務局が奔走し、不足分を集めてくれた。これらの措置や職員一人一人の感染予防のお陰で、当事業団での新型コロナウイルス感染症の発生は職員、患者さん、健診者ともにゼロであった。

診療所の患者さん数は4月、5月の緊急事態宣言中には昨年に比べ極度に減少した。また、健診の中止や健診者数の制限のため、健診者数も減少した。一方、がん検診受診の控えが昨年度に比べ増えた。悪性腫瘍発見の遅れにならないことを祈っている。

診療所では、特色ある専門外来、例えば、脂肪肝外来、不整脈外来、弁膜症外来、心不全外来を創設した。また、新宿の診療所に来るのをためらっている患者さんには電話処方を行った。

新型コロナウイルス感染症は当事業団の根幹の啓蒙活動などにも影響した。毎年日本橋三越本店の三越劇場で開催されていた健康セミナーが開催できず、YouTubeで配信した。健康講座も同様に、Web配信とした。

研究助成のうち、三越医学研究助成は、コロナ感染症下で研究施設の研究が進まなかった為か、応募数は減少した。一方、海外留学渡航費助成は、海外で研究しようと若い医師が多くおり、例年並みの応募があり、海外留学者の減少が言われて久しいが、多くの若い医学研究者が海外で学ぶことを期待したい。

今年は新型コロナウイルス感染症に影響された年であった。かねてから懸案であった、エステックビル3階から事務局等の移動をおこなったこと。非常勤医師の外来を少し減らしたこと、など必ずしもプラス面でないことを行わざるを得なかったが、健康セミナーのweb配信や特殊外来の新設、電話処方など新しいことにも挑戦した。

次年度も新型コロナウイルス感染症と共存しなければならないが、それこそ、新型コロナウイルス感染症に打ち勝った証を立ててゆきたい

(水野杏一 記)

公益財団法人

三越厚生事業団

MITSUKOSHI HEALTH
AND WELFARE FOUNDATION